

令和6年度

会報

第21号



【新緑の伊那キャンパス広場】

信州大学農学部後援会

農学部 HP: <https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/agriculture/>

目次

●ご挨拶	後援会長 田中 雅浩	1
●農学部後援会の皆様へ	農学部長 米倉 真一	2
●農学部創薬標的科学研究室での学生生活	学生委員長 喜井 勲	3
●大学だより		
・令和5年度 後援会長賞・農学部長賞		4
・令和6年度 学会賞等の受賞		5
・進路情報		6
・国際交流情報		7
・研究室紹介：食品発酵学研究室（野村研究室）編		8
・キャンパスフォト		9
・サークル紹介 農学サイクロイド・伊那美術部		10
●事務局だより		
・令和5年度事業報告		12
・令和5年度決算書		13
・令和6年度事業計画		14
・令和6年度予算書		15
・後援会役員名簿		16
・令和6年度後援会総会		17
・ようやく、やっと…	副会長 平出 衛一	18
●あとがき	副学生委員長 入枝 泰樹	



ご挨拶

後援会長 田中 雅浩

拝啓 秋風が心地よく吹き渡り、実りの季節を迎える今日この頃、後援会の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

私が信州大学農学部後援会会長を拝命してからあっという間に月日は流れ、その任期も残すところ僅かとなりました。この間、後援会活動を通じて多くの方々と関わり、また様々な学びと気づきを得ることができました。ここに至るまでご協力いただきました後援会の皆様、農学部の教職員の皆様、そして関わりをいただいた全ての皆様に心より感謝申し上げます。

信州大学農学部は、長年にわたり農業や環境、生命科学など幅広い分野での教育・研究を進め、地域社会や産業に貢献していると承知しております。私たち後援会は、その活動を支える立場として、学生たちが伸びやかに学び、研究のできる環境づくりをサポートすることが責務だと考えております。特に永きにわたるコロナ禍を経て、学生たちのやれる事、やりたい事が増えてきた昨今において、いかなる支援が必要なのかという課題に取り組んでまいりました。本年度はサークル活動費の補助を増やすというかたちでの支援となりましたが、今後も物価高騰への懸念が続く中で、支援のあり方というものも流動的に変化させていく必要があるのだと思います。

さて、コロナ禍が完全に収束したわけではありませんが、本年度も後援会総会、信大マルシェ、落葉松祭が無事に開催されました。後援会総会においては後援会としての支援のあり方について皆様にご審議いただき、ご承認いただくことができました。あらためて、ご理解いただきましたことに感謝申し上げます。その後、行われた大学、学部の説明会では、あらためて取り組みを知る場となり、やはり大切な機会であると再認識いたしました。また、私自身、今回初めて個別面談にも参加させていただきました。大学での様子を聞かせていただいたり、進路相談などをさせていただいたりしたのですが、本当に驚くほど親身になって話してくださり、あらためて参加して良かったと実感しております。後援会の皆様も是非、この機会をご活用していただくことをお勧めいたします。そういう意味では、時世柄、仕方のない事ではありますが、今年度参加された方があまり多くなかったことは少し残念ではありましたが、説明会、個別面談はもちろんのこと、元来、後援会の皆様との交流、意見交換できる場はあまりありませんので、この機会を是非活かしていただきたく、来年度は、より多くの皆様にご参加いただき、後援会総会が盛大に行われることを期待しております。

また、同日に行われた信大マルシェにも参加させていただきました。多くの方の来場があり、大変な賑わいを見せておりましたが、何よりも学生たちが生き生きと楽しそうに取り組んでいる姿は、とても清々しく、コロナ禍の先にある素晴らしい学生生活を彷彿させるものでありました。今後の更なる盛り上がりを楽しみにしています。

結びに、信州大学農学部の益々の発展と、より良い学生生活のために、後援会の皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げますと共に、米倉学部長をはじめとする学校関係者の皆様の、常日頃からのご尽力に、心より感謝申し上げます。挨拶とさせていただきます。

敬具

農学部後援会の皆様へ

農学部長 米倉 真一

後援会の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。令和4年度より学部長を仰せつかっております米倉真一と申します。農学生命科学科の動物資源生命科学コースの講義、学生実験を担当しています。また、大学院では総合理工学研究科 生命医工学専攻 生命工学分野に所属しております。後援会の皆様どうぞよろしく願いいたします。

後援会の皆様方には、日頃より学部・研究科の教育・研究ならびに学生の福利厚生、課外活動等にご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。平成16年度に後援会を組織していただき、在学生のサークル活動、大学祭、学生表彰、合同企業説明会などの就職活動等、学生生活に対して種々のご支援をいただいております。これまでのご支援・ご協力に対しまして深く感謝申し上げます。

1945年（昭和20年）2月、専門学校令により長野県にも県立の農林専門学校の設立が認可され、これを受けて同年4月、農科と林科の2科からなる長野県立農林専門学校が開校されました。1949（昭和24）年制定の「国立学校設置法」によって新制大学が誕生する際、この農林専門学校が現在の信州大学農学部の母体となったわけですから、来年には、信州大学農学部は“創立”80周年を迎えることとなります。卒業生は、農林関係はもとより、広く官界、産業界、学界において活躍されており、これまでの卒業・修了生は約1万名にも及びます。今後も農学の使命である生命・食料・環境分野に関する社会の諸課題を解決しながら、柔軟かつ先進的な教育研究体制を構築してまいり所存です。

一方で、世界の急速なグローバル化、AIの急速な拡大、地球温暖化の影響による甚大な災害の発生等に加えて、全く予測不可能に近かったコロナの感染拡大による社会構造・経済構造の変化、ロシア/ウクライナ戦争による世界経済の変化等々、完全にVUCA時代（将来の予測が困難な時代）を迎えたと言っても過言ではありません。VUCAとは「Volatility：変動性」、「Uncertainty：不確実性」、「Complexity：複雑性」、「Ambiguity：曖昧性」の4つの単語の頭文字をとった造語で、物事の不確実性が高く、将来の予測が困難な状態を言い表す言葉です。よって、今後は「農学」という学問の学びだけでなく、こうしたVUCA時代に対応できる人材を育成することは大学の使命であると考えます。そのため、信州大学農学部では、VUCA時代に求められる「情報収集力」「問題解決力」「意思決定力」「コミュニケーション力」「臨機応変な対応力」を鍛える教育をするべく、その構築へ向けて着手しているところでございます。

信州大学農学部は、これからも引き続き、自然豊かな環境のもとで地球的な広い視野と現実的な視点に立って農学に関する広い知識と技術を涵養し、その成果を広く社会に還元できるよう努力を続けてまいります。また時代の変化に応じた人材育成に努めてまいり所存です。後援会の皆様におかれましては今後とも変わらぬご高配を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

農学部創薬標的科学研究室での学生生活

学生委員長 喜井 勲

ちょうど季節の変わり目である9月は、研究室に新しい風が入ってくる時期でもあります。教員にとっては台風みたいなものかもしれません。今年度、私の研究室には学部3年生2名が配属してくれました。これで学生は5名となり、技術補佐のパートの方3名と私を合わせて9名体制となりました。こじんまりとした研究室です。

ここ3年ほどの会報記事を拝読し、さてどんなことを書こうかと悩みました。親御さんたちが知りたいのは、学生の研究室での生活ではないか？ と勝手に判断しまして、私の研究室での学生生活について少しご紹介したく思います。

当研究室は午前9時始業です。パートさんは時間通りに出勤されますので、学生はそれを見習っています。遅刻にはそんなに目くじら立てていません。睡眠不足の方が問題です。その後は、実験プロトコルを書いたり、前日に得られたデータについて私と議論したり、就活したり、講義に行ったり、朝ご飯食べたり、歯磨きしたり、各々活動しています。午前からバリバリ実験入れる学生もいれば、午前はぼーっとして午後から活動のスクロスターもいます。11時頃になると今日何食べる？ どこに行く？ とか聞こえてきます。研究室メンバーや友人と食べに行ったり、お弁当を作ってきたり、それぞれです。いろんなパターンがありますが、マンネリ化しつつあるみたいです。実験で忙しい学生はさっさとお昼を食べて実験を再開し、時間があればゆったりお昼を食べて、いろいろ情報交換しているみたいです。午後は、午前の続きの実験をしたり、自分のデスクで実験結果をノートにまとめたり、オンラインの就活インターンに参加したり、やはりバラバラです。私は17時過ぎには帰宅します。学生たちは18時から19時くらいには帰宅しているみたいです。たまに実験の都合で遅くまで居ることもあります。晩ご飯を研究室メンバーと一緒に食べることもあるみたいで、朝私が出勤すると、電気圧力鍋が使われた形跡があり、部屋にカレーの匂いが充満していたりします。夜は近くの日帰り温泉でのんびりしたりと、都会の大学では望めない生活ではないかと思います。一方で、悩みや問題を抱えた学生は、本学部の臨床心理士や保健師の先生とお話しています。深刻に捉える親御さんがいらっしゃるかもしれませんが、気軽にちょっとした相談ができますし、私も時々相談にのってもらっています。一人でできることには限界がありますから、そこは他者の協力を積極的に仰いで、早めの対処が肝要です。

学生たちには交通事故の被害者にも加害者にも絶対になるんじゃない！と言っています。学生委員長を拝命し、学内会議に参加して、どれほど交通事故が多いかを目の当たりにしました。深夜バイトもやるんじゃない！と言っています。その代わりに、給付型奨学金の申請を優先事項として支援しておりまして、多くの学生が奨学金をいただけております。

最後になりますが、後援会の方々からの温かいご支援のもとで様々な活動が継続できていることに、本紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

令和5年度 後援会長賞

コース・分野ごとに専攻研究又は修士論文が高い評価を得た学生に対して、表彰状を授与するとともに、記念品を贈呈いたしました。

後援会長賞は、他の学生の範となった者を表彰することにより、表彰された学生の榮譽をたたえるとともに、在学生の勉学、研究活動に対する意欲を高め、励みとなることを目的としています。

受 彰 者

【専攻研究】各コース2名

(敬称略)

コース名	氏 名
生命機能科学	木村 優太
	山田 夏未
動物資源生命科学	小沢 晟也
	梶村 彩香
植物資源科学	佐々木 優
	本田 莉夏子
森林・環境共生学	礒野 輝彦
	神江 真衣

【修士論文】各分野1名

(敬称略)

分野名	氏 名
先端生命科学	高瀬 渉吾
食品生命科学	亀山 勇樹
生物資源科学	熊埜御堂 由依
環境共生学	大野田 直弥
生命工学	森本 孔汰

令和5年度 農学部長賞

表彰者に対して、表彰状を授与するとともに、記念品を贈呈いたしました。

農学部長賞は、他の学生の範となった者を表彰することにより、表彰された学生の榮譽をたたえるとともに、在学生の勉学、学生活動に対する意欲を高め、励みとなることを目的としています。

表 彰 者

学部における学業成績が特に優秀であると認められるもの（卒業予定者の中から各コース1名）

(敬称略)

コース名	氏 名
生命機能科学	齊藤 葉名
動物資源生命科学	新井 崇之
植物資源科学	井口 満晴
森林・環境共生学	菊川 拓聖

大学院における学術研究の成果が特に顕著であると認められるもの

(敬称略)

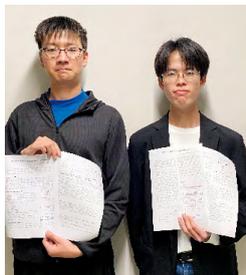
	分野名	氏 名
修士	先端生命科学	JAMIYANPUREV SOYOLMAA
修士	先端生命科学	野村 奈津実
修士	先端生命科学	山本 万智
修士	食品生命科学	米本 英都
修士	食品生命科学	安 訓輝
修士	食品生命科学	許 沛涵
修士	生物資源科学	熊埜御堂 由依
修士	生物資源科学	小原 涼太郎
博士	生命工学	小浜 智大

その他同等又はそれ以上の表彰に価する行為等があったと認められるもの (敬称略)

団体または個人名	
落葉松祭実行委員会	大規模での落葉松祭を復活開催し大盛況を収めた
植物資源科学コース 佐々木 優	学術研究の成果等が特に顕著である

令和6年度 学会賞等の受賞

No	コース・分野	受賞者	受賞名	受賞日	タイトル
1	修士 環境共生学分野 1年	石原 龍太	令和6年度砂防学会研究発表会 若手優秀発表賞	令和6年 5月16日	森林の変化が斜面安定性に与える影響—根系成長モデルを用いた検討—
2	学部 森林・環境共生学コース 4年	中沢 勇真	令和6年度砂防学会研究発表会 若手優秀発表賞	令和6年 5月16日	裸地斜面における霜柱に起因した表面侵食の簡易モデル化
3	修士 食品生命科学分野 1年	田中 瑞豊	第78回日本栄養・食糧学会大会 学生優秀発表賞	令和6年 5月26日	「納豆摂取後に血中に移行するジブプロドの認知機能改善作用の検証」
4	修士 生命工学分野 1年	小林 浩大	第38回(2024年度) 日本放線菌学会大会 優秀ポスター賞	令和6年 9月11日	滅菌処理した腐葉土を用いた固体培地による放線菌の培養
5	修士 生物資源科学分野 1年	山下 明築	第20回アジア・大洋州畜産学会議 (The 20th Asian-Australasian Association of Animal Production (AAAP) Congress) 日本畜産学会国際会議優秀発表賞	令和6年 7月12日	Effects of using free-access stalls on the social ranking of the pregnant sows
6	博士 生命工学分野 3年	小浜 智大	米国繁殖生物学会第57回大会 (Society for the Study of Reproduction, 57th Annual Meeting) Best International Abstract Award	令和6年 7月16日	Preantral Follicles of Over 12-Month-Old Mice Have Developmental Potential for Matured Egg Production
7	修士 生命工学分野 1年	本田 莉夏子	日本植物病理学会関東部会 学生優秀発表賞	令和6年 10月8日	Colletotrichum fioriniae GCA6から単離した植物の胚軸伸長を促進する新規化合物の同定
8	学部 植物資源科学コース 4年	吉田 優香	日本植物病理学会関東部会 学生優秀発表賞	令和6年 10月8日	コスモス炭疽病菌におけるコアエフェクターの重要性とシロイヌナズナ変異体を用いたMC69の標的探索
9	修士 生命工学分野 1年	佐々木 優	第23回糸状菌分子生物学 コンファレンス 学生優秀ポスター発表賞	令和6年 11月4日	果樹炭疽病菌Colletotrichum fioriniae GCA6における感染特異的形態分化を制御する因子の探索



1 石原 龍太さん 2 中沢 勇真さん



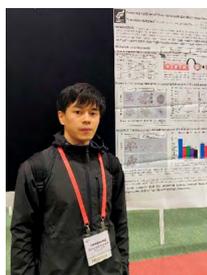
3 田中 瑞豊さん



4 小林 浩大さん



5 山下 明築さん



6 小浜 智大さん



7 本田 莉夏子さん 8 吉田 優香さん



9 佐々木 優さん

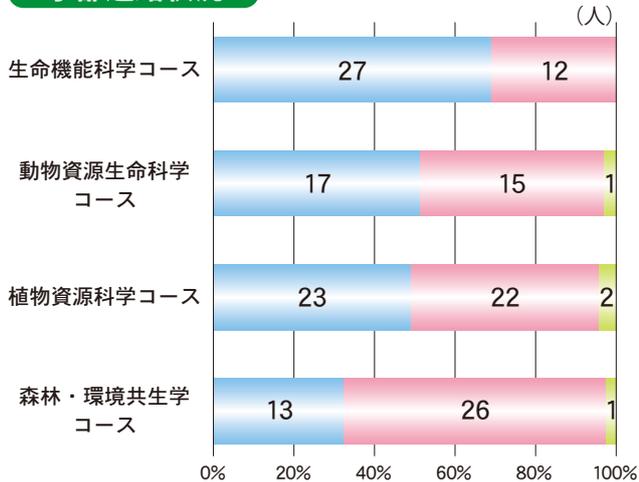
進路情報

農学部の進路状況・就職状況です。

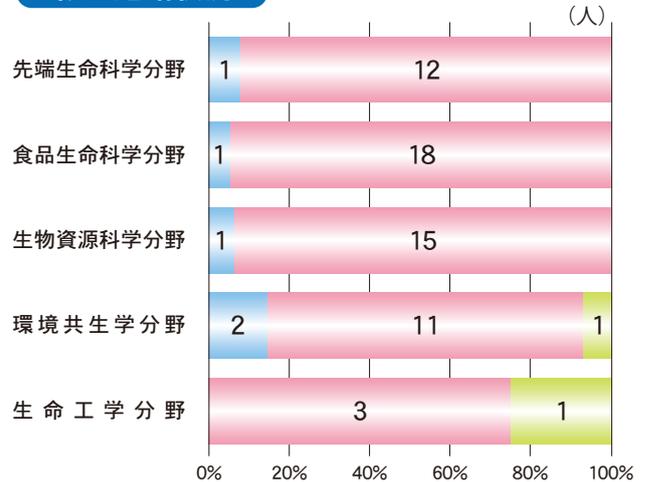
令和5年度進路状況

進学
就職
その他

学部進路状況



修士進路状況



主な就職先

学部 (令和5年度)

【生命機能科学コース】

アセラ、いなば食品、DHC、東洋技研、ピクルスコーポレーション、岐阜県、長野県教育委員会、石川県教育委員会

【動物資源生命科学コース】

JA 全農いばらき、ゴールドバック、サカタのタネ、名古屋食糧、プリマハム、マルサンアイ、雪印メグミルク、ツルヤ、オーレック、農林水産省、栃木県、広島県

【植物資源科学コース】

JA 全農長野、長野県 A・コープ、いなば食品、岩下食品、内堀醸造、協同乳業、常磐植物化学研究所、コモ、タキイ種苗、日穀製粉、農林水産省、長野県、大阪府

【森林・環境共生学コース】

森林研究・整備機構森林整備センター、野沢園、ふじくぼ林産、北陽建設、平方木材、林野庁、長野県、愛知県、福井県、姫路市、伊丹市、鈴鹿市

大学院 (令和5年度)

【先端生命科学分野】

新日本科学、キッセイ薬品工業、雪国まいたけ、アプライド・マテリアルズ、日清食品、ファーマインド、アルビオン、廣貫堂、不二製油、エーザイ、アストラゼネカ

【食品生命科学分野】

三菱商事ライフサイエンス、エヌ・イー ケムキャット、ウェルナス、カルビー、新日本科学、紀文食品、アルビオン、トクヤマ、ゴールドバック、三幸製菓、コスモ石油、イビデン、富士フィルムワコーケミカル、日本ハム、和光ケミカル、マイクロアド、亀田製菓、キリンホールディングス

【生物資源科学分野】

シンジェンタジャパン、日本システムコンサルタント、ハーゲンダッツジャパン、エルザクライス、サカタのタネ、理研ビタミン、青年海外協力協会、理研グリーン、岡谷鋼機、菱電商事、長谷川香料、DNP情報システム、山崎製パン、群馬県

【環境共生学分野】

ウッズステーション、多摩川精機、日本全薬工業、コバコン、山西、防衛省 海上自衛隊、長野県

【生命工学分野】

日清食品、NTTデータ・アイ、マルコメ

国際交流情報

農学部では、留学生と様々なトピックについて英語で会話を楽しむ「English Salon」をはじめ、短期や中・長期の交換留学や研究留学、留学生の受け入れなど、多彩な国際交流事業を行っています。



海外農学実習

アメリカの協定校である「カリフォルニア州立大学チコ校」にて、3週間の海外農学実習を実施しました(令和6年9月6日～21日)。参加した5名の学生は、現地の大学の授業に加え、アメリカの農業についてより深く学ぶため、周辺企業や施設の見学も行いました。カリフォルニア州立大学チコ校とは、COIL(オンライン協働学習)によるオンライン交流から始まりましたが、来年度には本学部で同様の農学実習を実施し、チコ校から学生を受け入れる予定です。今後は双方向の学生交流を重ね、さらなる発展が期待されます。

高大連携国際教育イベント「Cultural Connections～Connecting through foods～」

令和6年8月7日、高大連携の国際教育イベントを開催し、長野県内の高校生13名が参加しました。今年のテーマは「食」として、本学部の学生・留学生とともに異文化の食文化を学びました。持ち寄りのランチパーティーでは大いに盛り上がり、「英語で留学生に話しかけるきっかけになった」といった声が多く聞かれました。

本イベントは今年で3度目の開催となります。農学部の国際交流を担当するバグドゥ・ファワズ助教が県内高校の英語教員と連携して企画しており、今後も参加者の声を反映させながら、さらに充実したイベントの実施に努めてまいります。



グローバルコア人材養成コース 英語能力試験補助

全学横断特別教育プログラム「グローバルコア人材養成コース」は、海外・国内におけるグローバル環境で、組織のコア人材として活躍できる素養や能力、教養を身につけ、主体的に協働できる人材の育成を目指しています。本プログラムに登録している農学部生に対し、後援会より、プログラム修了に必要な英語能力試験の受験料を補助していただけることになりました(上限5,000円)。多くの学生がプログラム修了を目指して頑張っています。ご支援に心より感謝いたします。



信州大学学術研究院(農学系)助教 野村 亘

はじめまして、本年度4月より生命機能科学コースに着任しました野村亘と申します。農学部後援会の会員の皆様には、日々の学生生活に対するサポートを頂きまして大変有り難く存じます。今回、本会報にて「研究室紹介」記事執筆の機会を頂戴いたしましたので、この10月より一期生となる分属学生を迎えて実質的にスタートをいたしました「食品発酵学研究室」の研究内容とともに、研究室での活動の様子を簡単ではございますがご紹介させて頂きたいと思っております。

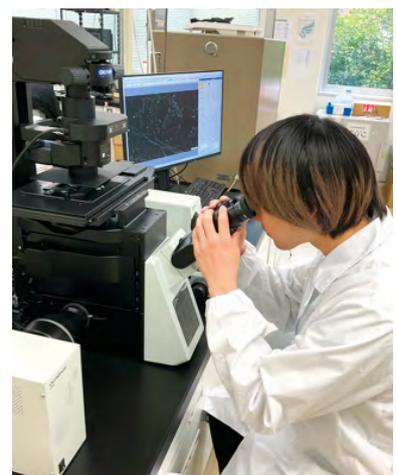
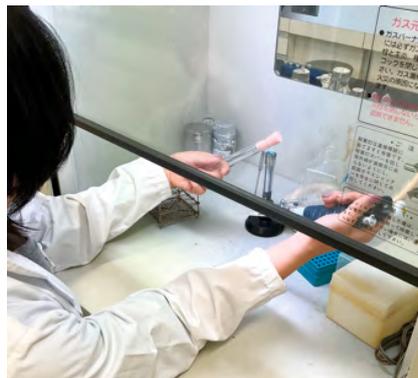
私たち「食品発酵学研究室」では、アルコール発酵を利用する醸造や物質生産に用いられる微生物である酵母(いわゆるパン酵母である出芽酵母)(右写真)を実験材料にして、細胞のストレス応答機構や代謝制御機構に興味を持って研究を行っています。



出芽酵母

微生物による有用物質生産のプロセスでは、時として過酷な環境条件下に微生物は曝されます。そこで、酵母をモデル生物とした解析を通して、微生物細胞が様々な環境変化や環境ストレスを感知して適応するメカニズムの理解を目指しています。また、酵母を利用する醸造に必須な酵母の代謝経路であるアルコール発酵経路に着目し、環境変化や環境ストレスがアルコール発酵経路に及ぼす影響について、酵母遺伝学を中心とした研究手法を用いて解析を行っており、醸造をはじめとする酵母を用いた物質生産に資する知見の獲得を試みています。

現在、研究室は研究環境や研究機器の整備など、研究室のセットアップに日々奮闘しているという状況です。そのような中ですが、一期生である3名の学生の皆さんの協力のもと、少しずつ実験は開始できるようになってきました(無菌操作や顕微鏡を用いた解析など、卒業研究に向けた実験トレーニングを行いながら毎日頑張っています)。学生の皆さんには、独自で新しい発想を大切にサイエンスを楽しんでもらいたいと思っています。



以上、何とかスタートをきれた「食品発酵学研究室」ですが、今後も「基礎・基本を大切にした幅広い知識が支える専門性」の構築を通して、「基礎からの広がり」を実感できる研究室づくりを目指して研究活動に誠実に頑張っていきたいと考えています。

からまつ 落葉松祭

10月19日(土)に、落葉松祭(からまつさい)が開催されました。

今年のテーマは「息吹」です。昨年度、コロナ禍から実に4年ぶりに大規模での復活をした落葉松祭では、運営を行う実行委員会もまだまだ息を吹き返したばかりのフレッシュな存在であることや、草木に囲まれて常に生命のいぶきを感じることができるといふ農学部らしさを表したテーマです。

今年も多くの皆様にご来場いただき、大盛況で終えることができました。

後援会から落葉松祭運営費用の支援をいただいております。ご支援ありがとうございました。



案内図



落葉松並木



展示発表



模擬店



ステージ発表

農学サイクロイド

森林・環境共生学コース 3年 高洲 究

農学サイクロイドは松本に本部があるサークル、サイクロイドの農学支部であり、ジャグリングを行うサークルです。ジャグリングとは動力のついていない物体を投げたり操ったりする行為を指します。そのため、サイクロイドでは「ボール」や「クラブ」、「リング」といった道具を投げるものから、空中で回転させるコマである「ディアボロ」、紐のついたボールを振り回す「ポイ」といったものまで全ての道具を含めてジャグリングとして扱っています。そして、様々な道具で行われるジャグリングをともに練習するというのがサイクロイドの普段の活動となります。

また、サイクロイドの活動の特徴として自分のペースで練習に取り組むことができるということが挙げられます。ジャグリングの技のほとんどは一人で完結するものであり、上達に他者の存在を必要としません。そのため、自分の満足行くまで己の道具に向き合うことが可能です。

もちろん、年に数回ジャグリングを披露する機会もあります。各キャンパスの学祭やあがたの森フェスティバルでパフォーマンスを行うほか、外部の方より依頼公演という形で招待をいただくこともあります。

下の写真は依頼公演にて伊那中央病院の病院祭に出演させていただいたときのものです。依頼公演ではステージパフォーマンスとジャグリング体験会を行いました。

これらのステージ発表を目標にし、ジャグリングに取り組むメンバーも多いです。ジャグリングというと見世物のイメージを持たれる方も多いですが、サイクロイドではステージでの披露は強制ではなく、ジャグリングのスポーツ的な側面を大切に活動を行っています。



2024/10/5 伊那中央病院 病院祭にて
ジャグリング体験会の様子



伊那美術部

生命機能科学コース 4年 梅原 優作

皆さんこんにちは。伊那美術部代表の梅原優作です。伊那美術部は、それまで農学部キャンパスに美術サークルがなかったということで、2年前に設立されたサークルです。

主な活動として、春、夏、冬の学内展示と秋に開催される落葉松祭での展示を行っております。展示を行う際は、作品の感想を伺う感想カードや来場者履歴などを併せて設置しており、教職員や学生などの声を聞く場となっております。今年の落葉松祭では、通常の作品展示に加え、1つのテーマに対してそれぞれが作品を制作する、テーマ制作を試みました。今回は「秋」というテーマで制作を行い、各々の秋を感じられる展示となったかと思えます。また、落葉松祭実行委員会から場内の装飾をご依頼いただき、場内の誘導看板を3枚制作しました。通常、作品は一人で作りますが、看板制作では4~5人の班で行ったことで、個人制作にはない交流ができました。



まだ設立して約2年のサークルで、分からないことが多いですが、今回の落葉松祭も含めて伊那美術部では展示や作品制作を行うごとに新たな試みを行っています。これからも更なる成長を目指して活動していくので、来年の落葉松祭展示の際は是非、足を運んでいただければと思います。



令和5年度 信州大学農学部後援会事業報告

1. 就職活動援助

就職講演会

2. 課外活動援助

(1)サークル活動援助(物品、交通費等の援助)

(2)落葉松祭援助

(3)学生ボランティア活動援助

3. 学生厚生援助

ハンドソープ購入(感染症対策等)

4. 学生表彰

(1)後援会長賞 13名(卒業論文・修士論文優秀者:各コース2名・各分野1名)

(2)農学部長賞 14名(学業学術研究優秀者)、1団体(落葉松祭実行委員会)

5. 会報出版

第20号発行(令和5年12月)

6. 国際交流支援

日本人学生と留学生との交流支援

7. F棟第4実験室の実験台更新

8. 役員会・総会

(1)会計監査 令和5年7月6日実施

(2)役員会 令和5年8月5日開催

(3)総会 令和5年9月23日開催

令和5年度 信州大学農学部後援会【一般会計】決算書

収入総額 4,424,028 円
 支出総額 2,630,982 円
 次年度繰越額 1,793,046 円

(R5. 4. 1 ~ R6. 3. 31)

収入の部

(単位：円)

項 目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較 (B)-(A)	備 考
前年度繰越額	1,384,011	1,384,011	0	
今年度会費	3,300,000	3,040,000	-260,000	学部131人 編入5人 院37人
預金利息	9	17	8	
合 計 (C)	4,684,020	4,424,028	-259,992	

支出の部

(単位：円)

項 目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較 (B)-(A)	備 考
事業費	2,405,500	1,839,182	-566,318	
1. 就職活動援助費	30,000	15,000	-15,000	
2. 課外活動援助費	1,640,000	1,145,686	-494,314	落葉松祭, サークル活動, 学生ボランティア活動等援助
3. 学生厚生援助費	100,000	85,140	-14,860	薬用ハンドソープ 90ℓ
4. 学生表彰経費	144,900	176,960	32,060	農学部長賞, 後援会長賞等経費
5. 会報出版費	390,600	396,396	5,796	会報第20号発行印刷, 稿料, 送料
6. 国際交流支援経費	100,000	20,000	-80,000	留学生等との交流経費
会議費	301,000	200,030	-100,970	
1. 総会費	270,000	173,166	-96,834	総会諸経費
2. 役員会費	31,000	26,864	-4,136	役員会議費, 交通費
事務費	140,000	111,649	-28,351	
1. 事務用品費	50,000	33,100	-16,900	封筒等
2. 通信費	90,000	78,549	-11,451	総会開催通知等
事務委託費	300,000	300,000	0	事務委託費
振替手数料	40,000	30,121	-9,879	会費納入手数料
学部行事援助費	150,000	150,000	0	卒業式支援経費, 中原寮祭支援
基金特別会計へ繰入	0	0	0	
予備費	1,347,520	0	-1,347,520	
合 計 (D)	4,684,020	2,630,982	-2,053,038	
次年度繰越額 (C)-(D)	0	1,793,046	1,793,046	
総合計	4,684,020	4,424,028	-259,992	

令和5年度 信州大学農学部後援会【基金特別会計】決算書

収入総額 4,028,786 円
 支出総額 1,397,000 円
 差引繰越額 2,631,786 円

(R5. 4. 1 ~ R6. 3. 31)

収入の部

(単位：円)

項 目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較 (B)-(A)	備 考
前年度繰越額	4,028,718	4,028,718	0	
一般会計より繰入	0	0	0	
預金利息	68	68	0	
合 計 (C)	4,028,786	4,028,786	0	

支出の部

(単位：円)

項 目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較 (B)-(A)	備 考
予備費	2,631,786	0	-2,631,786	
実験台整備	1,397,000	1,397,000	0	
合 計 (D)	4,028,786	1,397,000	-2,631,786	
次年度繰越額 (C)-(D)	0	2,631,786	2,631,786	
総合計	4,028,786	4,028,786	0	

令和6年度 信州大学農学部後援会事業計画

1. 就職活動援助

就職講演会

2. 課外活動援助

- (1) サークル活動援助(物品、交通費等の援助)
- (2) 落葉松祭援助
- (3) フォトコンテスト経費援助
- (4) 学生ボランティア活動援助

3. 学生厚生援助

ハンドソープ購入(感染症対策等)

4. 学生表彰

- (1) 後援会長賞(卒業論文・修士論文優秀者:各コース2名・各分野1名)
- (2) 農学部長賞(学業学術研究優秀者、スポーツ・芸術・社会活動での高評価者)

5. 会報出版

第21号発行(令和6年12月)電子化

6. 国際交流支援

- (1) 日本人学生と留学生との交流支援
- (2) 英語学習補助(グローバルコア人材養成コース英語能力試験受験料)

7. 役員会・総会

- (1) 会計監査 令和6年6月27日実施
- (2) 役員会 令和6年8月3日開催
- (3) 総会 令和6年9月21日開催



令和6年度 信州大学農学部後援会【一般会計】予算書 (R6.4.1～R7.3.31)

収入の部

(単位：円)

項 目	令和6年度 (A)	令和5年度 (B)	差引増減額 (A) - (B)	備 考
前年度繰越額	1,793,046	1,384,011	409,035	
入金会費	3,300,000	3,300,000	0	
預金利息	20	9	11	
合 計	5,093,066	4,684,020	409,046	

支出の部

(単位：円)

項 目	令和6年度 (A)	令和5年度 (B)	差引増減額 (A) - (B)	備 考
事業費	2,441,350	2,405,500	35,850	
1.就職活動援助費	30,000	30,000	0	講演謝金
2.課外活動援助費	1,790,000	1,640,000	150,000	サークル活動, 落葉松祭, フォトコンテスト, 学生ボランティア援助
3.学生厚生援助費	100,000	100,000	0	ハンドソープ代
4.学生表彰経費	144,900	144,900	0	農学部長賞, 後援会長賞経費
5.会報出版費	276,450	390,600	-114,150	会報作成費, 稿料
6.国際交流支援経費	100,000	100,000	0	日本人学生と留学生との交流支援経費, 英語学習補助等
会議費	207,000	301,000	-94,000	
1.総会費	176,000	270,000	-94,000	総会諸経費
2.役員会費	31,000	31,000	0	役員会議費, 交通費
事務費	140,000	140,000	0	
1.事務用品費	50,000	50,000	0	封筒等
2.通信費	90,000	90,000	0	総会・役員会開催通知, 振込手数料等
事務委託費	300,000	300,000	0	
振替手数料	40,000	40,000	0	会費納入手数料
学部行事援助費	150,000	150,000	0	卒業式支援経費等
基金特別会計へ繰入	0	0	0	
予備費	1,814,716	1,347,520	467,196	
合 計	5,093,066	4,684,020	409,046	

平成6年度 信州大学農学部後援会【基金特別会計】予算書 (R6.4.1～R7.3.31)

収入の部

(単位：円)

項 目	令和6年度 予算額 (A)	令和5年度 予算額 (B)	差引増減額 (A) - (B)	備 考
前年度繰越額	2,631,786	4,028,718	-1,396,932	
一般会計より繰入	0	0	0	
預金利息	50	68	-18	
合 計	2,631,836	4,028,786	-1,396,950	

支出の部

(単位：円)

項 目	令和6年度 予算額 (A)	令和5年度 予算額 (B)	差引増減額 (A) - (B)	備 考
実験台整備	0	1,397,000	-1,397,000	
予備費	2,631,836	2,631,786	50	
合 計	2,631,836	4,028,786	-1,396,950	

令和6年度 信州大学農学部後援会役員名簿

役職	氏名	学年	コース
会長	(タナカ マサヒロ) 田中 雅浩	4	植物資源科学コース
副会長	(ヤザワ タケシ) 矢澤 武之	4	生命機能科学コース
副会長	(ヒライデ エイイチ) 平出 衛一	3	動物資源生命科学コース
理事	(ヤマギシ エイジ) 山岸 英治	3	森林・環境共生学コース
理事	(コウサカ タケヒロ) 高坂 武宏	2	生命機能科学コース
理事	(クマガイ コウジ) 熊谷 幸治	2	動物資源生命科学コース
理事	(タナカ ケン) 田中 賢	2	森林・環境共生学コース
理事	(モモセ マユミ) 百瀬 まゆみ	1	生命機能科学コース
理事	(タキザワ アツシ) 滝沢 敦	1	動物資源生命科学コース
理事	(ミヤザワ ケンジ) 宮澤 賢司	1	植物資源科学コース
監事	(イワダレ ケンジ) 岩垂 健治	4	森林・環境共生学コース
監事	(ヨコヤマ アツコ) 横山 厚子	3	生命機能科学コース

令和7年度 信州大学農学部後援会役員名簿

役職	氏名	学年	コース
会長	(ヒライデ エイイチ) 平出 衛一	4	動物資源生命科学コース
副会長	(ヤマギシ エイジ) 山岸 英治	4	森林・環境共生学コース
副会長	(タナカ ケン) 田中 賢	3	森林・環境共生学コース
理事	(クマガイ コウジ) 熊谷 幸治	3	動物資源生命科学コース
理事	(モモセ マユミ) 百瀬 まゆみ	2	生命機能科学コース
理事	(タキザワ アツシ) 滝沢 敦	2	動物資源生命科学コース
理事	(ミヤザワ ケンジ) 宮澤 賢司	2	植物資源科学コース
監事	(ヨコヤマ アツコ) 横山 厚子	4	生命機能科学コース
監事	(コウサカ タケヒロ) 高坂 武宏	3	生命機能科学コース



令和6年度 農学部後援会総会

令和6年9月21日(土)13時から信州大学農学部26番講義室にて後援会総会を開催しました。総会に続けて行われた大学からの説明会で、各担当教員から農学部の教育研究の動向やカリキュラム、学生支援、国際交流といった学生生活に関する説明が行われました。

その後、コース分野別の概要説明が行われ、希望者には教員との個別進路履修相談が行われました。

最後に、生協食堂で保護者の皆様と教職員との懇親会が開催され、和やかな雰囲気の中交流を深めていただきました。

おみやげに農学部野辺山ステーションで朝収穫したキャベツをお持ち帰りいただきました。



学部長挨拶



学生生活の説明



懇親会



懇親会記念写真

■ 懇親会では、サークルの演奏発表がありました。

懇親会では、昨年度に引き続き「ケルト音楽研究会」による演奏発表がありました。練習の成果を発表していただき、会場から盛大な拍手が送られました。



ようやく、やっと・・・

副会長 平出 衛一

日本列島今年の夏も挨拶の代わりに「暑いですね・・・」が口癖になっていた時期も過ぎ農学部がある伊那谷も朝夕過ごしやすくなってきました。後援会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

私自身、生まれて40数年、長野県から出たことも無い生粋の信州人であり、信州大学の名前も当たり前前に聞いて育ってきました。その信州大学にまさか（いい意味でのまさか）お世話になるとは。思い起こせば、高校3年の懇談会で初めて娘から「信大の農学部に行きたい」と聞かされ、正直驚いた事（虫も触れないのに農学部？）が思い出されます。その後なぜ信大の農学部に進学したいか話し合い、部活動引退から短期間で自らの努力で信大生一員となる事が出来、私も縁があり後援会の役員を引き受ける事となりました。

題名の通り、ようやく、やっと・・・。コロナ禍で多々制限があった社会情勢。皆さまのご子息、ご息女も部活動や学生生活をコロナで泣く泣く諦めざるを得ない状況だったと思います。時が流れ、ようやくコロナ前の生活が少しずつ取り戻してきて大学生活も充実して過ごす事が出来ていると思います。コロナも落ち着き始めてから段々とサークル活動も制限なく出来るようになったある日、娘のサークルの先輩とお話する機会があり、「どうしてこんな何も無い長野県に来たの？」と聞いたところ「長野県はホントいい所でこのままずっと暮らしたいです！地元に戻りたくないです！」という返答に、信州大学はいい環境の中勉学を励むことが出来る場所という事に私自身気づかされました。社会人になる大切な時期をこの信州で過ごす事で、これからの人生で第二の故郷として学生皆さんの心の中残って欲しいと思います。

後援会の総会についてもコロナ禍で縮小や自粛をしておりましたが、昨年度より対面で開催することが出来ました。来年度以降、会員の皆様も後援会の総会に参加していただき学生がどの様な環境で生活しているか「来て、見て、感じて」ください。

最後に、生粋の信州人の私から、普段生活しているとよく使う長野県の方言をお教えします。

- ①「帰省した時くらい、ずくを出して家の手伝いをして！」※ ずく
 - ②「スマホ見るのなからにして自分の部屋を片付けなさい！」※ なから
- この言葉が理解できればご子息・ご息女は立派な信州人です。



あ と が き

秋が深まり、朝晩の寒さが強まってまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。日頃は信州大学農学部後援会の活動にご支援・ご協力を賜り、深く御礼申し上げます。

昨年度より対面形式の後援会総会が復活し、本年度も従来の形で開催することができました。総会後には希望された保護者の方と担当教員の間で個別相談が行われました。私も昨年、今年と個別相談にて保護者の方とお話させていただきましたが、個別相談や懇親会等の行事は学生の日ごろの学修や生活等を保護者の方に知っていただくとともに、教員と保護者の方の親睦を深める良い機会であると感じています。来年度も、多くの方々にご参加いただければ幸いと存じます。

信州大学農学部の活動もコロナ禍以前とほとんど変わらない状態を取り戻し、対面での実験・実習・演習を実施しています。コロナ禍の影響を受けて入学してきた学生たちも今では学部の上級生や大学院生となり、卒業論文や修士論文の研究に励んでいます。また、昨年度より完全な対面形式で復活した農学部の学園祭（落葉松祭）も、今年度はさらに出店店舗数が増えて開催され、ようやく懐かしい大学の風景が戻ってきました。感染症等への対策は継続されますが、コロナ禍の経験も教訓に、学生が安心かつ充実した学生生活を送ることができる環境作りを心がけたいと思います。

最後になりましたが、皆様からのご協力をいただき、今年も本広報誌を無事に発行することができました。誌面作成に当たりご協力頂いた皆様には、この場を借りて深く感謝いたします。これからも、信州大学農学部ならびに後援会活動へご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

信州大学農学部 学生委員会 副委員長 入枝 泰樹

令和6年12月発行

信州大学農学部後援会

〒399-4598 長野県上伊那郡南箕輪村8304

TEL/FAX 0265-76-8501

E-mail: yurinoki@shinshu-u.ac.jp

